

第16回

(通算3562回) 例会  
令和5年10月24日  
例会場：ホテルアークリッシュ豊橋

## 豊橋北RC・豊橋RC合同 ガバナー公式訪問

理事会委員会 担当



2023-24 RI テーマ・世界に希望を生み出そう

10月 地域社会の経済発展月間



左から 安達 道行 豊橋北RC幹事、金森 正芳 豊橋北RC会長、  
村井 総一郎 PG、酒井 法丈 ガバナー、杉浦 敏夫 地区幹事、  
福井 敬 会長、伊藤 晴康 幹事

### 歓迎の挨拶・乾杯

豊橋RC 村井 総一郎 PG



酒井ガバナー、杉浦地区幹事、本日は豊橋の地へ来てくださりありがとうございます。また、豊橋北RCの皆さまにはホストを務めていただきありがとうございます。酒井さんは私がガバナーの時に豊田RCの幹事を、杉浦地区幹事は田島ガバナー年度に私と同じ会長をされていました。そんな縁があります。本日はロータリーの新しい考え方や新しい奉仕のあり方についてのお話を聞くことを楽しみにしています。

それでは、酒井ガバナーの今後益々のご活躍と、第2760地区の発展を願ひまして、高らかに杯を上げたいと思います。乾杯。

### 会長挨拶・歓迎の挨拶

豊橋北RC 金森 正芳 会長

先日の土曜日、日曜日に豊橋まつりが開催されました。豊橋祭りには、豊橋まつりを盛り上げる花形として、60年近く続く「豊橋まつりクイーン」という女性のチームがありました。それが今年、性別は問わずの「JICHIKAIアンバサダー」というチームに変更され、男性2名が加わり、豊橋まつりを従来のように盛り上げてくれました。

そのチームの活躍を見て、近年ロータリークラブで話が出ている「DEI」という言葉を思い出しました。多様性に対して壁があるという意識がある訳ではありませんが、自分自身が周りの進化に驚いている様では、まだまだDEIを実践できていないのだと反省しています。

本日はロータリークラブという大きな組織の中で、より中枢に近いガバナーより、RI会長方針や地区方針及び、これからのロータリーのお話をお伺いする機会をいただきました。私たちのクラブのこれからを再度見直すチャンスと考え、ご指導いただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

### 会長挨拶・歓迎の挨拶

豊橋RC 福井 敬 会長

酒井ガバナーは地区方針の中で「コロナの時代を経てコミュニケーションの重要性を再認識した」とおっしゃっています。人との繋がりについて興味深いことがある雑誌に掲載されていたのでご紹介いたします。

東京の日本橋にロボットが給仕するカフェがあります。このロボットはAI搭載型の自ら動くロボットではなく、人間による遠隔操作で動くようになっています。実はこの遠隔操作は、寝たきりになっている頸髄損傷の方や、手足が動かなくなったALS患者の方、その他難病や重度の障害を抱えた外出困難な方が行っているのです。このロボットは「分身ロボット」と呼ばれ、吉藤オリイさんが開発しました。寝たきりの人達にも人との出会いのチャンスを創造したのです。給仕を目的としたロボットは、経済効率だけを考えればAI搭載のロボットの方が優れていると思います。しかし、吉藤さんはあくまでもロボットを通してコミュニケーションを成立させることを目的としています。RIが提唱しているDEIを実現する切り口として、この視点が正しいかどうかわかりませんが、DEIを考える上で一つの方向性として非常に参考になるのではないかと思います。

### ガバナー紹介

豊橋北RC 八木 基之 会長エレクト

酒井ガバナーは1957年の生まれで、所属クラブは豊田RCです。ご職業は警備業を営まれ、豊田市に本社がある豊田東海警備株式会社の代表取締役を務められています。豊田RCには1998年に入会され、様々な委員会の委員長や幹事を歴任された後、昨年度はガバナーエレクトと同時にクラブ会長を務められました。地区では2004年から2013年度に渡り出向され、地区副幹事や地区WCS委員会副委員長、地区識字率向上副委員長等を務められました。また、公職として2012年より一般社団法人愛知県警備業協会の副会長として業界人としてもご活躍されています。



ガバナー公式訪問の役割の中に、R I会長のメッセージを皆さまにお伝えするということがあります。ゴードン R.マッキナリー会長の今年度のテーマは「世界に希望を生み出そう」です。ゴードン会長は「会員の帰属意識とインクルージョンが浸透しつつある今だからこそ、このことが言える」とおっしゃっています。

会長のメッセージには「幸せ」や「平和」という言葉がよく出てきます。「人に親切にすることが大切で、それによって幸せを得ることができます。また、ロータリーの奉仕プロジェクトは、全てが積極的平和のための土壌作り」とおっしゃっています。そのことを建物と基礎に例えられ、「どんなに立派な建物でも基礎が出来ていなければ建物を建てることは出来ません。そして、平和というものは夢ではありません。受け身的なものでもありません。会員一人ひとりがそれぞれ努力しなければ、平和を勝ち得ることは出来ません。また、オープンな会話も必要でしょう」ともおっしゃっています。

会員増強については、「素晴らしいクラブ体験を提供できるようにクラブのリーダーが尽力すれば、より多くの会員を維持することができ、より多くの入会候補者がロータリーに関心を持ってくれます。これ以上無い居心地の良い、これ以上無い魅力的なクラブを築き上げましょう」とおっしゃっています。このことから、会員増強には居心地の良い魅力的なクラブを作ることが先決だということが読み取れます。

そして、奉仕活動については「会員一人ひとりの帰属意識を高めることが大切」とおっしゃっています。それには、誰もが居心地が良いと思えるクラブを自ら作っていくことが必要です。

R Iは今年度「ポリオプラスプログラム」「メンタルヘルス」「女児のエンパワーメント」の3つの重点事項を挙げています。もし今ロータリーがポリオから撤退したら、10年後には約20万人の子どもが感染するだろうと言われています。ポリオには薬が無く、有効手段はワクチンのみです。感染者数が0になり、3年間それを維持して、根絶宣言が出た時に初めて、ロータリーはポリオで成果を上げたこととなります。根絶までもう少しと言われていますが、会員一人ひとりが意識を持って取り組まなければ、根絶には至らないと思います。

ポリオプラスプログラムの「プラス」には、ロータリーが行うポリオ根絶の取り組みが、子ども達の間で流行する、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5種類の伝染病の予防にも繋がるだろうという意味が込められています。

メンタルヘルスについては、コロナ禍の3年間は例会をまともに開けず、会員同士が関わることすら制限

されました。コロナ禍が明けた今、もう一度会員同士がお互いに意識して支え合い、情報共有しながらクラブを運営するべきだと思います。例えば、この3年の間に入会された方の中には、メーキャップを知らない方もいました。ロータリーが続けてきた文化すら、3年で変わってしまう恐れがあります。文化は継続して次の世代に繋げていかなければいけません。これは、会員がお互いに支え合うことにも繋がると思います。

女児のエンパワーメントについては、日本の現代社会において、女の子が教育を受けられないという環境はありませんが、グローバルな目線に立てば、まだまだそういったことが出来ない地域や国があります。この問題を改善するには、本来持っている力を発揮できる環境や、自らの意志で行動できる社会を目指さなければいけません。そうすることで家族の健康が改善されたり、貧困から脱却出来るようになります。また世界の総生産の増加も見込まれ、その恩恵は当然日本にもあるため、他人事ではありません。

今年度のR Iのテーマは「世界に希望を生み出そう」ですが、この「希望」とは何でしょうか。これを皆さんにどの様にお伝えしようかと、情報を集めていく中で出会った言葉に「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生み出す。そして希望は失望に終わることはない」というものがあります。我々は様々な奉仕プロジェクトを行っていますが、それは希望があって行う訳ではありません。奉仕プロジェクトの先に希望が見えてくるのです。

ここで皆さんに問いかけたいと思います。何故皆さんはロータリーに入会しましたか。ロータリーの会員とはどのような人ですか。ロータリーは何をしているところですか。何故ロータリーの会員であり続けるのか。あなたのクラブの代表する活動はなんですか。皆さんには、それぞれ思いや考えがあると思いますが、一人ひとりのその気持ちが大切です。ロータリーの会員とは、地域社会の中で役に立ち、ためになる者となるよう日々研鑽努力している人です。ロータリークラブはその様な人たちの集まりであり、お互いの研鑽の場として例会を開いています。また、地域や世界で必要とすることに応えようとしているのがロータリーの行っていることです。更に、会員であり続ける理由は、居心地が良いからです。もしクラブに対して居心地が悪いと感じていたら例会に来なくなり、退会してしまいます。そして、会員歴の長短に関わらず良いことは共有していただきたいと思います。

ロータリーには「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」というビジョン声明があります。これが今ロータリーの考え方の中心となっています。そしてこのビジョンを達成するための優先計画があります。それは「より大きなインパクトをもたら



す」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的な関わりを促す」「適応力を高める」の4つです。先ほど皆さんに問いかけた5つの項目と、この4つの優先事項はリンクしています。RIは決して皆さんが取り組めない内容や、難しいことを押しつけている訳ではありません。年度毎に皆さんの考えていることを整理してくださいということだけなのです。インパクトをもたらすためには新たな方法も必要でしょう。基盤を広げるためには繋がりと機会が大切です。そして、ニーズを知らなくてははいけません。応える活動をしていきましょう。更に、適応力を高めることによって職業やロータリーを持続可能な存在として磨き上げることが出来ます。この様なことを行っている内にビジョンが達成出来てしまうでしょう。

昨年度からロータリーはよくDEIという言葉を使っていますが、多様性は元々ロータリーに存在していた価値観です。表面的な多様性ではなく、一人ひとりの気持ちに向き合い、無意識の偏見を無くすことが大切です。公平さについても「四つのテスト」にある通り、既にロータリーの価値観に根付いています。世代を超えた関係性を作ることが大切です。インクルージョンについては、他人を歓迎し、自分も歓迎される環境を作ることが重要です。これについても「四つのテスト」で取り上げられています。したがって、DEIの文化は既に根付いており、今に始まったことではありません。それに気が付くかどうか重要になります。本日は豊橋RCと豊橋北RCの皆さまがお見えですが、同じ感覚になってくださいということではありません。それぞれのクラブが築き上げてきた文化や伝統は、継続してください。その上で次の変化を生むためにDEIという考え方も時には必要でしょう。

地区方針では今年度「プライド」や「ブランド」という言葉を掲げさせていただきましたが、その前にロータリーには「親睦」や「奉仕」という文化があります。親睦や奉仕はロータリーの両輪とされていますが、一つの大きな輪として捉えるべきだと思います。親睦から自身が成長する機会を得て、奉仕から心の豊かさを培えることこそが、ロータリーの魅力ではないでしょうか。ロータリーの一員であることへのプライドや、クラブへの帰属意識を持った会員が集まることによって、ロータリーの存在意義や社会性が高まり、地域でのブランド力アップに繋がると考えます。

### 本日のゲスト

ガバナー 酒井 法丈 様 (豊田RC)  
 地区幹事 杉浦 敏夫 様 (豊田RC)  
 地区スタッフ 磯部 晃 作様 (豊田RC)  
 中日新聞社 筒井 厚至 様  
 東愛知新聞社 田中 博子 様  
 東海日日新聞社 大林 恭子 様

### ニコニコBOX 豊橋北RC 渡辺 康二 会場委員会副委員長

■酒井法丈ガバナー、ようこそ豊橋へ。卓話を楽しみにしています  
 福井 敬 会長、伊藤 晴康 幹事、  
 村井 總一郎 2018-19年度ガバナー、  
 神野 紀郎 元地区幹事、  
 佐々木 利政 元地区幹事、  
 高山 景一 地区財団委員長、  
 大塩 啓太郎 地区IA委員長、  
 久保田 充三 地区補助金委員会委員  
 (順不同)



### 幹事報告

伊藤 晴康 幹事

1. 今週26日(木)例会を、本日に変更致しましたので26日の例会はございません。  
お間違いのないようご注意ください。

### 出席報告

豊橋RC 杉田洋 出席委員会 委員長

当日出席者 66名 計算会員数 95名中29名欠席  
 総会員数 112名 出席率 69.47%

### 例会予定

11月2日(木) 結婚記念祝例会  
 11月9日(木) 休会